しなって生力品川区永年継続事業所顕彰事業

| н | 7 | ↦ |
|---|----|----|
| | | |
| Н | -1 | ∕∖ |

| 1 「L | ながわ百年力」発行にあたって | 2 |
|------|---|----|
| 2 事 | 業紹介 | 3 |
| 3 [[| ながわ百年力」ダイジェスト | 4 |
| 4 顕 | 彰事業所紹介 | 6 |
| | 1 民間企業 (大企業) 日本ペイントホールディングス株式会社/三菱鉛筆株式会社/ 株式会社加藤製作所/株式会社明電舎/光村印刷株式会社/ 三和テッキ株式会社/タキゲン製造株式会社/大崎電気工業株式会社/ 日本精工株式会社/株式会社ニコン/ 東洋製罐グループホールディングス株式会社 | |
| | 百年力コラム1 「顕彰事業所と都市型観光」 | 17 |
| | 2 学校法人 学校法人攻玉社学園/学校法人立正大学学園/学校法人三浦学園/ 学校法人星薬科大学 | 18 |
| | 3 民間企業(中小企業・個人事業主) ハ木合名会社仙台味噌醸造所/有限会社加藤畳店/有限会社畳松岡/株式会社平野屋堀江商店/山崎商店/有限会社三河屋/桝翁軒/ヤマギシリフォーム工業株式会社/有限会社吉田家/株式会社東海造園/丸屋履物店/有限会社河邊商店/株式会社幸阪/株式会社オカジマ/株式会社星野金物/株式会社尾張屋/栗山商事株式会社/株式会社フクイ/株式会社泰正/株式会社池田元一商店/有限会社御菓子司木村家/有限会社富田屋工業所/せんべい処あきおか/株式会社小野運送店/株式会社岩元屋商店/平和バルブ工業株式会社/有限会社櫻井精肉店/有限会社青波堂木庭印房/株式会社東京堂/清水米穀株式会社/株式会社KANO/品川屋海苔店/株式会社みの屋海苔店/株式会社ワインショップ西川/有限会社新井商店/株式会社南京軒食品/株式会社日本理化工業所/小林運送株式会社/株式会社若素園/曽根金網工業株式会社/株式会社ジャパンコマース/株式会社塚本恒産/仲屋ブラシ工業株式会社/株式会社山田紙器 | 22 |
| 5 顕 | 彰事業所マップ | 44 |
| | 百年力コラム2 「顕彰事業所と商店街」 | 46 |

※事業所紹介は、①創業 (開校) 年数 ②品川区内所在年数 ③50音の順で掲載しています。 ※創業年数等掲載内容は、注釈がない限り2017年現在の情報です。

「しながわ百年力」発行にあたって



品川区では、平成27年度より、創業100年以上、品川区内で70年以上 事業を継続している区内事業所を対象に、区内産業および地域コミュニ ティ等への貢献ならびに永年の努力に対し敬意を表し顕彰する事業を 実施してきました。

そして今年度、この顕彰事業に加え、この3年間の集大成として、今まで顕彰をいたしました永年継続事業所を品川区の誇りとして広く内外にPRすること、また、幾多の危機を乗り越えてきた事業所が有する事業継続のためのノウハウ等を広く伝え、区内企業の事業継続を支援することを目的として、本冊子「しながわ百年力」を作成しました。

本冊子では、この3年間に顕彰をいたしました区内59カ所の事業所を 紹介しております。

品川区は、江戸時代から東海道第一の宿場としてにぎわい、加えて、明治期に入ってからは京浜工業地帯発祥の地として、目黒川の水運の利便性や鉄道の開業を背景にものづくり企業などが発展してきた長い歴史があります。

このような長い歴史の中で、本冊子で紹介しております事業所は、区 内経済や雇用を支え、商店街のにぎわいを創出するとともに、防災・福 祉・地域活動など様々な分野における社会貢献活動を行うなど、品川区 の産業振興や地域の発展に長きにわたり寄与していただいている事業 所であります。

各事業所の100年を超える経営の歴史の中では、幾多の金融危機や震災、戦災などもあり、常に順風満帆ではなかったと想像できます。しかしながら、現在まで事業を継続してこられた各事業所には、その危機を乗り越えてきた並々ならぬご努力、ご経験、ノウハウ等をお持ちであり、本冊子ではこうしたことも紹介しております。

本冊子で紹介している各事業所が今後も末永く事業を継続され、ますますご活躍されますことをご祈念申し上げますとともに、本冊子の内容が、区内中小企業の事業継続の支援や更なる活性化の一助となれば幸いです。

平成30年1月

品川区長 濱野 健

■品川区永年継続事業所顕彰事業とは

区内での事業継続を支援し、区内産業および地域コミュニティの活性化を図ることを目的として、永年に わたり事業を継続している区内事業所への顕彰事業を平成27年度より実施しました。

■対象

創業100年以上、品川区内で70年以上事業を継続している 区内事業所

■実施内容

年に1回顕彰の対象となる事業所を決定し、式典を実施 平成27年度 22事業所(式典:平成28年2月24日(水)) 平成28年度 20事業所(式典:平成28年12月2日(金)) 平成29年度 17事業所(式典:平成30年1月31日(水))

平成29年度は、上記に加えて、この3年間に顕彰しました区内59事業所を広く内外にPRするため、また、各事業所の事業継続のノウハウ等を紹介し、区内企業の事業継続や事業承継を支援するため、本冊子「しながわ百年力」を作成しました。





■品川区の事業承継支援事業

区では、区内中小企業の多くが経営者の高齢化による後継者不足等に直面している現状があることを踏まえ、世代交代の促進と地域経済の発展および雇用の維持・拡大を図ることを目的として、下記のとおり事業承継への支援を実施しています。(※事業内容は平成29年12月1日現在のものです。)

1) 事業承継セミナー

事業承継に関する導入的なセミナー、後継者に関するセミナーを行います。

2 訪問相談(専門家の派遣)

事業承継に関するご相談を専門家「事業承継士」がお受けします。

- ■対象者 区内中小企業の経営者、後継者
- ■内 容 お悩みに対するアドバイス、診断、事業承継プラン策定など ※日時・場所は希望に応じて要相談
- 3)後継者塾

後継者(候補者)の育成のため、区内中小企業の後継者・後継者候補の 方を対象に、経営に必要な知識やノウハウを提供します。また、後継者世 代の仲間づくりをサポートします。(※平成29年度は10月~1月まで全8回実施)

4) 事業承継支援資金

事業承継に必要な資金の融資 あっせんを行っています。



■お問い合わせ

品川区地域振興部商業ものづくり課 〒141-0033 品川区西品川1-28-3中小企業センター2F TEL 03-5498-6335

「しながわ百年力」ダイジェスト

「しながわ百年力」事業所の全体像

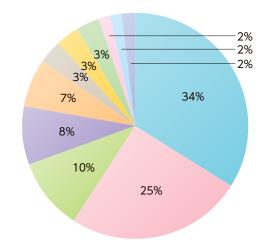
59 の事業所について、業種別、本社所在地別、創業年代別に統計を取りました。

業種

製造業と小売業で6割ほどを占める

最も多い製造業が20事業所、それに次ぐ小売業が15事業所となり、両者で約6割を占めています。製造業の10事業所は大企業であり、その分野で国内企業有数の実績を残しています。



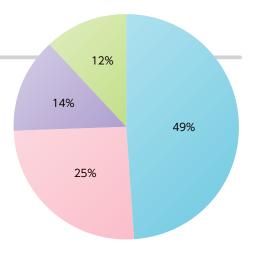


地区

品川地区が5割弱を占める

かつて品川宿として栄えた地域を中心とする品川地区に所在する事業所が29カ所あり、5割弱を占めます。次いで大崎地区、 荏原地区、大井地区の順となっています。





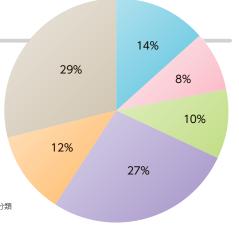
創業 年数

5割以上の事業所が明治期の創業

時代別では江戸時代に創業した事業所が13カ所、明治時代が29カ所、大正時代(~大正6年)が17カ所となります。区内で最古の事業所は1625(寛永2)年創業の八木合名会社仙台味噌醸造所。



※江戸後期以前:1853年以前 幕末:1854~1867年 明治前期:1868~1888年 明治中期:1889~1904年 明治後期:1905~1911年 大正:1912年~ として分類



平成 27、28、29 年度に品川区永年継続事業所表彰を受けた事業所 (= [しながわ百年力] 事業所) は59カ所あります。 各事業所の記事の前に、全体の統計や取材で得られた至言の一部をダイジェスト的に紹介します。

「しながわ百年力」事業所の至言

各事業所を取材する中で得られた「至言」の一部をご紹介します。

- ■老舗であるからこそ時代のニーズに敏感になり、変化を恐れない姿勢を持つべき。
- ■伝統をただ守るだけでなく、時代に合わせることも必要。
- ■老舗として、材料は手に入りうる最高の物にこだわる。
- ■100 年にわたり成長を続けているパワーの源は、常に新たなジャンルに挑戦し、 今までにない価値の創造を目指す社風に他ならない。
- ■時代の波に惑わされることなく自分たちのキャパシティを守り、堅実に目の前の仕事をこなしていく。
- ■生産を外部の協力工場に委ね、経営資源や人材を製品開発や営業に集中させてきたことが、 今につながっている。

- ■この地でずっと事業を続けてこられたのは、人とのつながりが大きい。 今も当社では地域の活動やイベントに積極的に協力しながら、 地域や社会に貢献できる事業を心がけている。
- ■会社は公共のもの。地域社会とのつながりを大切に。
- ■商店街と町会の両輪で、地域を元気にすることが大切。 商売だけでなく、まちづくりの視点も。

- ■優秀な人材が、家族同然の結束力で、迅速に実行し、協力工場をはじめとした 関わるすべての人たちに感謝をする。これに勝る武器はありません。
- ■少人数だからこそ、小回りが利く。 お客様のご要望に対する「迅速な対応力」は変わることなく受け継がれている。
- ■商店街の皆さん、組合の皆さん、問屋やメーカーの皆さんを、分け隔てなく大事に。 「人を大事にすること」は営業の根幹。

日本ペイントホールディングス株式会社

共存共栄の理念に基づき、 社会公共の福祉に貢献

創業 136_年 創業: 1881 (明治14)年 資本金: 788億6,200万円

本社所在地:大阪市北区大淀北2-1-2 東京事業所:東京都品川区南品川4-1-15

電話番号: 03-3740-1110

代表者:代表取締役社長 田堂 哲志 従業員数:単体:224人 連結:16,872人 売上高:4701億6100万円

URL: www.nipponpaint-holdings.com/

*2016年12月31日現在





我が社の 百年譚

日本の塗料業界のトップから 世界のリーディングカンパニーへ

1881 (明治14) 年に茂木重次郎が創業し、ペンキの国産に初めて成功した光明社がルーツです。1869 (明治29) 年に現在の東京事業所がある南品川の土地に工場を移転し、1898 (明治31) 年には日本ペイント製造株式会社を設立しました。販路拡大を目指して企業の近代化を進め、経営の多角化にも着手。大阪工場竣工に続き、東京工場を拡張しました。第一次世界大戦後の恐慌で業績不振に陥りますが、中興の祖・小畑源之助が本社を大阪に移転するなどの改革を断行し、業績を回復すると同時に、強固な経営基盤を構築しました。第二次大戦後には、進駐軍からの大量受注や朝鮮戦争特需、関連産業の需要が急増し、





左 第4代社長小畑 源之助

右 明治30年代頃、 現在地の遠景

業績が大きく拡大しました。その後は、海外へ販路を拡大しつつ、合弁会社の設立や技術・販売提携等を通じて進出、国内では販売網の整備・拡大を続け、昭和55年度の決算では売上高を1000億円台に乗せました。平成に入るとグローバル展開を加速し、2014年には持株会社体制に移行、組織を再編成し、現社名に商号を変更しました。現在は世界第4位。売上高1兆円を目指し、更にプレゼンスを高め新たなステージに挑戦していきます。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の 道標

中興の祖による大改革で戦後恐慌を乗り切った

代表取締役社長田堂 哲志

当社は、第一次世界大戦後の恐慌によって、創業以来初めての赤字決算となり、危機を迎えました。そこで 1920 (大正9) 年、小畑源之助専務取締役 (後に社長) が経営の舵取りを行い、全国の工場を集約、経営の中心を大阪に移すといった大改革を断行し、業績を瞬く間に回復させました。 創業以来、私たちの諸先輩方が幾多の困難を乗り越え、積み重ねてきた日々があり、この歴史を、持続的に成長させることが私たちの使命です。 当社のたすきを未来へ繋ぐために、今後も社員一人ひとりがあくなき挑戦を続けてまいります。

地域とともに ■近隣小学校で塗装ボランティアを実施

企業の社会貢献活動の一環として、事業所の近隣にある小学校で塗装ボランティアを実施しています。児童が小学校の外壁に壁絵を描くための塗料を提供するほか、社員の手によって門扉や遊具の塗り替えなどを行っています。塗り替えは

一日作業になりますが、喜んでくれる子どもたちのために、社員数十人がすすんで作業にあたっています。当社は品川区の事業である「しながわCSR推進協議会」発足時からの会員企業であり、今後もこのような活動を続けてまいります。



製造業(鉛筆·筆記具·事務用品·OA関連商品製造)

ē鉛筆株式会社

日本で初めて国産鉛筆の工業生産を実現

資本金:44億9700万円

本社所在地:東京都品川区東大井5-23-37 電話番号: 03-3458-6221 (代表)

代表者:代表取締役社長 数原 英一郎 従業員数(連結):3427名 売上高(連結):647億1600万円 URL: http://www.mpuni.co.jp/

*2016年12月31日現在









左上 クセになる、なめらかな書き味 「ジェットストリーム」

右上 芯が回転するシャープ 「クルトガ」

左下 1901年に採用された 「局用鉛筆」



独学で製造方法を研究 日本で初めて鉛筆の工業化

1878 (明治11) 年のパリ万国博覧会で、外国製の鉛 筆に感動した眞崎仁六は、帰国後、独学で研究を始めま した。試行錯誤を重ね、芯、軸の製造方法を研究した眞崎 が、1887 (明治20)、眞崎鉛筆製造所(後の三菱鉛筆株 式会社)を設立したことが始まりです。鉛筆が貴重品とし て扱われていたなか、当時の逓信省(現・総務省)に1901 (明治34) 年、眞崎の『局用鉛筆』が逓信省御用品とし て採用されたことで事業は軌道にのりました。これを記念 して、このとき納入した鉛筆の3種類の硬度と眞崎家の家紋





左 創業者·眞崎仁六 右 当時の鉛筆工場

「三鱗」を図案化し、三菱マークを考案。"三菱"マークと 「三菱」という商標は、1903 (明治36) 年に商標登録さ れました。余談ですが、戦後GHQより、当社は財閥系列と 勘違いされ、財閥解体の一環で商標の使用禁止を迫られる という窮地に立たされました。当時の社長が先頭に立って GHQに何度も足を運び説明を重ね、製品に明記すること を条件に使用が許可され、その危機を乗り越えました。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた ……………

転換占の

高級鉛筆『ユニ』の開発



5代目 代表取締役

数原英一郎

戦後復興期の1958(昭和33)年に発売した、高級鉛筆『 uni』は時代を画する商品です。当時の技 術部長が欧米の鉛筆業界を視察、他社にない日本独自の製品を作らねばならないと痛感したことをきっ かけに開発はスタートしました。当時の三菱鉛筆の最高級品が1本20円の時代、外国製と同じ1本50 円という高価格でしたが、建築家などのプロだけでなく、子どもたちからも憧れの商品として人気を博し、 予想を上回る売れ行きとなりました。 uni は英語の unique 「唯一の」を意味しています。

2016 (平成28) 年6月、大井町本社 ビル建て替えに伴い、解体される旧本社 ビルの壁や床に、ポスカで自由に"楽描 き"できるイベントを実施しました。対象 は3歳から15歳までの子どもたちと、そ の保護者の皆様。普段なら叱られてしまう ような窓ガラス、壁、床などへの"楽描き" に、子どもたちは大喜びの様子でした。旧 本社での最後のイベントに、地域の皆さん をはじめ2000名を超える方々にご参加い ただき、「かく」楽しさを改めて感じてい ただけるイベントとなりました。



製造業(荷役機械・建設機械の製造等)

株式会社加藤製作所

PROGRESS TO THE NEXT STAGE

資本金: 29億3.589万円

本社所在地:東京都品川区東大井1-9-37 電話番号: 03-3458-1111 (代表)

売上高: 754億円(2016年度) URL: http://www.kato-works.co.jp/

代表者:代表取締役 加藤 公康

従業員数:690名(連結1210名)

*2017年6月1日現在







- 左 本社社屋
- 中 最大吊上げ荷重300tのクレーン車
- 右 30 t クラスの油圧ショベル

我が社の 百年譚

機関車からクレーン車等の建機製造へ 現在、6年連続国内トップシェア

当社は、「優秀な製品による社会への貢献」を経営理念 として120余年を歩んできました。 創業は1895 (明治28) 年で、個人事業として立ち上げた「加藤鉄工所」が始まり です。1923 (大正12) 年には産業用内燃機関車および鉄 道用モーターカーの製作に成功し、鉄道省の指定工場にな りました。1935 (昭和10) 年には個人事業を改組し、株 式会社加藤製作所を設立、現在に至ります。戦後、内燃機 関車等は衰退し、1960年代には転換点を迎えました。当社 はクレーン車や油圧ショベル等の建設機械分野にシフトし、



それまでに培った技術とパイオニア精神で、画期的な製品 を生み出してきました。1970(昭和45)年には東証一部 上場を果たし、1980年代には現在の主力になっているラフ テレーンクレーン等の製造を開始。操作性や安全性の高さ に定評のある「KATO」ブランドのクレーンは、国内トップ シェアを誇ります。今後は日本で得た信頼を世界へ発信し、 世界的企業としての地位を固め、製品ラインナップの充実、 販売拠点の拡充を進めてまいります。

▶▶▶こうして危機を乗り越えた…

転換点の 道標

国外にも生産拠点を設け、販路を広げた



4代目 代表取締役 加藤 公康

2004 (平成16) 年に私が4代目の社長に就任しました。業績が落ち込んだ苦しい時期の事業承継でした。 当時、建機の需要は国内ではすでに頭打ちで、飽和状態になっていました。 そこで苦境を乗り越える方策と して、海外展開をそれまで以上に強めたのです。2006年には中国に自社工場を設立して油圧ショベルの生 産拠点とし、販路を広げました。さらに2016年には、東南アジアや中東向けの大型クレーンの生産および 販売の拠点となる工場をタイに設立。これらが功を奏して業績は回復し、さらなる発展を目指しています。

本社近隣にある区立東海中学校の生徒の社会見学を毎年受け入れています。本社敷地内の施設 には、我が社のクレーン車第一号機のほか、それ以前に製作していたトラクターや内燃機関車など があり、中学生たちに見学してもらっています。また、油圧ショベルを係員が動かして、どのような 動きをするかなどを実際に見てもらったり、運転席に乗ってもらったりして、建機を体験してもらっ ています。そのほか、南品川にある東京健康科学専門学校・ウェルネススポーツセンターをサポート し、栄養士・トレーナー等の育成、子供たちの水泳教室を応援することで、地域に貢献しています。



製造業(発電・変電など電気設備、各種産業向けコンポーネント製品など)

株式会社明電舎 電気機器製造業のパイオニア

20年

創業: 1897 (明治30)年 資本金: 170億7千万円

本社所在地:東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower 電話番号: 03-6420-8400 (大代表)

従業員数(連結):8,474名 売上高(連結): 2,201億4,100万円 URL: http://www.meidensha.co.jp/

代表者:取締役社長 浜崎 祐司

*2017年3月31日現在









我が社の 百年譚

独自設計のモータを開発し、 「モートルの明雷」と称替

初代社長の重宗芳水は、14歳で日本初の重電機メー カー・三吉電機工場に入社しました。旺盛な探求心と先 見性により社内で高く評価されましたが、1890年代後半、 不況により会社が倒産寸前に。そこで芳水は退職し、国 産の電動機(モータ)を製造するための工場を開設。こ れが明電舎の始まりです。創業当初は輸入品の発電機 や電動機の修理、スイッチの製造などを行っていました が、その後、扇風機、制御器具、電灯器具、配電盤などを 経て、発電機や電動機の製造へと事業を展開。1906(明





左 創業者 重宗芳水 右 大正時代の工場

治39)年には、独自の設計法による電動機の製造を本格 的に開始しました。これが各業界に広く使われると、当社は 「モートル(モータ)といえば明電舎 との称賛を込めて 「モートルの明電」と呼ばれました。第一次世界大戦後に 発電機や変圧器、電動機の需要が高まり、事業はさらに拡 大。当社の社会インフラや産業に貢献する事業構造は、こ うして形成されました。

▶▶▶こうして危機を乗り越えた …………

転換点の

人を大切にする経営



14代目 取締役社長 浜崎 祐司

長きにわたる歴史の中で、当社は業績の低迷などにより幾度かの危機的な状況に陥りました。そのよう な状況下にあっても、基本的な考え方は「人は財産」です。需要の低迷で1990年代後期に一度だけ 早期退職優遇制度を実施しましたが、ほかに人員削減などの厳しい施策を打ったことはありません。優 れた製品やサービスを生み出すのは「人」です。「人」を大切にする気持ちなくして、当社のこれまで の歴史も、これからの将来もないと考えています。

地 域 とともに ひがずがで「ものづくり教室」を開催

創業110周年を機に、2007 (平成19) 年度から小学6年生を対象に開催してい ます。つくるのは、モータで回りながら走 り、障害物に当たるとゴロンと向きを変え てまた走り出すボール型のおもちゃです。 1人1個ずつ組み立て、完成後は体育館で

転がして遊びます。品川区では、重宗芳 水の妻で2代目社長のたけが創設した芳 水小学校など、毎年4~5校で開催してい ます。全国では、これまで10年間で7,000 人以上の児童に、この教室を通してもの づくりの楽しさを伝えてきました。



光村印刷株式会社

ともにつくり、ともに伝える。

創業 116_年 創業: 1901 (明治34)年 資本金: 56億788万円

本社所在地:東京都品川区大崎1-15-9

電話番号: 03-3492-1181

代表者:代表取締役社長 阿部 茂雄 従業員数(連結):766名 売上高(連結):173億7714万円

元上局(建結)・1/3億//14万円 *2 URL:http://www.mitsumura.co.jp/

*2017年3月末現在







左 1996 (平成8) 年竣工の 本社ビル

中 新聞、雑誌、図録、帳票な ど幅広く印刷物を手がける

右 世界最大最多色の木版画 「孔雀明王像」を再現



美術印刷で名を馳せる老舗 現在は印刷事業以外も手がける

1901 (明治34) 年に光村利藻が設立した関西写真製版印刷合資会社が当社のルーツです。利藻は幼少の頃から美術品に親しんでおり、「美を再現し、多くの人に感動を与えたい」という想いから起業しました。また、日露戦争時には写真班を派遣し水師営の会見の撮影にも成功したほか、関東大震災時には被災地の写真を載せた絵はがきを製作し、報道面でも高い評価を受けました。1928 (昭和3) 年に社名を光村原色版印刷所と改称し、1934 (昭和9) 年に当地品川に本社、写真スタジオ、印刷工場を建設。戦後は上場を果たすなど順調に発展しました。その後、



昭和初期の品川居木橋から 望む当社

印刷産業も機械化や電子化が急速に進み、当社の社名の由来でもあった原色版印刷から、現在主流のオフセット印刷へ製法を転換しました。1991(平成3)年には創業90周年記念事業として、世界最大最多色の木版画「孔雀明王像」の復元事業に取り組むかたわら、生産施設を集約。社名も光村印刷株式会社へと変更しました。現在は印刷事業のほか、デジタルコンテンツや、タッチパネルなどの電子部品なども手がけ、幅広く社会に貢献しています。

▶▶▶こうして危機を乗り越えた。

転換点の 道標

ソリューション型のビジネスモデルへの変革を



9代目代表取締役 阿部 茂雄

近年、印刷業界は市場の縮小やニーズの多様化など、急速な変化にさらされています。そのため、印刷を軸にしつつデジタルコンテンツの制作やエレクトロニクス製品の製造へと事業領域を拡大。今年度からは「変革、挑戦、お客様第一」を行動規範とし、事業の再構築に取り組んでいます。当社は創業以来、時代時代の最先端の印刷技術と美の再現への探求心を携えて事業を継続してきました。今後は印刷技術をベースにした新たな商機を探求し、多様なメディアと連動した仕組みづくりなど、ソリューション型のビジネスモデルに変革・展開し、新たな需要創出を目指します。

地域とともに □ 「感動伝達」をコンセプトにしたメセナ活動

100 余年にわたる社歴の中で、多くの 美術書や写真集を世に出してきました。企 業コンセプト「感動伝達」を事業として実 践するため、芸術がもたらす感動を多くの 人々に伝えるべく、メセナ活動に力を入れ ています。1997 (平成9) 年にMGG (光 村グラフィック・ギャラリー)を開設し、以来、無料で開放してさまざまな芸術・文化を発信。一般のお客様のほか、印刷業界やデザイン業界の方など幅広い来場者があります。さらには、地元の小学校や専門学校の課外活動の場としても活用されています。



製造業(鉄道・電力・プラント用金具・装置製造、販売)

三和テッキ株式会社

内外問わずすべての人々の和を尊ぶ「三和」精神

創業 110_年 創業: 1907 (明治40)年 資本会: 4億2380万円

本社所在地:東京都品川区南品川6-4-6

電話番号: 03-3474-4111

代表者:代表取締役会長 小野 和男、代表取締役社長 宇佐美 道雅

従業員数:415名 売上京:122億円

売上高: 123億円 URL: http://www.tekki.co.jp *2017年3月31日現在









左 本社社屋 上段左 整備新幹線用の可動ブラケット とハンガイヤー

上段右 メカニカル防振器 代表取締役会長小野和男(左) 代表取締役社長宇佐美道雅(右)



日本初の電車線金具製造会社に始まり 複数の基幹産業の一翼を担う存在に

創業者は東京電気鉄道の電気技師であった馬來晃です。電車線金具の国産化を目指し、1907 (明治40) 年に従業員20人ほどの馬來製作所を設立。大正になり電気鉄道建設が高まる中、電車線金具の設計製造技術で先んじていた当社は、この分野で確固たる地位を築きました。戦後、三和鉄軌工業株式会社と社名を改め、新たに出発しました。その後、国鉄電化などにより、昭和30年代に経営規模が急拡大。1957 (昭和32) 年には、電力会社の送変電市場にも進出しました。鉄道のみならず電力・プラント分野にも参





左 旧本社工場正門

右 創業当時の製品 「馬來式架設材料」が 設置された架線

入したため、1973 (昭和48)年には現在の社名「三和テッキ」に変更。電車線金具だけでなく、送変電用機械・工具・金具、発電所用管系支持装置など、後に当社の柱となる鉄道・電力・プラントという3分野それぞれに事業を拡大しました。現在は鉄道部門では架線金具の、プラント部門では原子力発電所向け管系支持装置のリーディングカンパニーとしての基盤を確立。電力部門では、金具類の販売だけでなく、鉄塔建設用クレーンメーカーとして貢献しています。

▶▶▶こうして危機を乗り越えた…



戦時体制下、外地向け製品の生産で活路を開いた

時代によって大なり小なりの危機はあったかと思いますが、社史として記録されているのは、昭和初期の相次ぐ恐慌の影響により、メーカー間の競争が激しくなり、苦しい経営を強いられたこと。同時期に吸収合併したライバルメーカーの所在地である南品川を本拠とし社員一同奮闘しましたが、戦時体制下には国内の鉄道電化が進まず、外地向け製品の生産に活路を求めました。現在は鉄道・電力・プラントという複数のインフラ関連分野で、安定した経営を続けています。



代表取締役社長 宇佐美 道雅

地域とともに □ 品川区の事業に積極参加し、地域貢献

当社は「しながわCSR推進協議会」の会員で、社会貢献活動の一環として区内各所でゴミ拾いや花壇の整備等の清掃美化活動に参加しています。毎月1回、当社周辺の清掃美化活動を行い、年間を通じて全員が参加することにより、社員の美化意識の醸成を

図っています。また、大井町三商店街が主催する「スポーツGOMI拾いin大井町」にも積極的に参加。その他にも、未来協育推進機構が主催する「しながわ職場あるき」にも参画しています。今後も地域との連携を大切にして、活動を広げたいと思います。



卸売・小売業(産業用金具・ハードウェア設計・販売)

ノ製造株式会社

鍋・釜の販売から 産業用金物の総合メーカーに

資本金: 4億6.000万円

本社所在地:東京都品川区西五反田1-24-4

電話番号: 03-3492-2001

代表者:代表取締役 瀧源 愛子 従業員数:510名

URL: https://www.takigen.co.jp/ *2017年1月末現在





ロングセラー「防水ハンドルA-140シリーズ」

1958年発行の総合カタログ1号

日本最大級の製品ラインナップ



鋭い観察力が 主力商品の開発につながった

当社は、1910 (明治43) 年に、鍋や釜などを販売する 瀧源商店として創業しました。戦争で多くを失いましたが、 終戦の翌年には事業を再開。戦後、五反田周辺には配・分 電盤BOX(変電設備を収納する金属製の箱)の製造業 者が多数存在しており、当社の営業先でもありました。そ んな折、行く先々で配・分電盤の付属金物を目にしていた 初代の瀧源秀昭があることに気づきます。それは、BOXの ハンドルの形状や材質がメーカーによって異なるというこ とでした。そこで、取引のあった町工場に相談し、ダイカス ト製法(高い寸法精度の鋳物を短時間で大量生産できる





1969 (昭和44) 年当時の社屋

方式)でハンドルをつくったところ、「安価で使い勝手もい い」と評価され、今なお売れ続ける主力商品となったので す。現在、当社では約8,000種類の製品を取り扱っていま すが、これは、工場を持たないファブレス経営だからできる こと。生産を外部の協力工場に委ね、経営資源や人材を製 品開発や営業に集中させてきたことが、今につながってい るといえます。

家族同然の結束力に勝るものはない





当社の社是は「人材の育成」。行動規範は「即断実行」。経営理念は「感謝」です。当社にとって、社員 とその家族は、タキゲンファミリーの一員。こうした考えに基づいて、これまでの危機を乗り越えてきた ように思います。優秀な人材が、家族同然の結束力で、迅速に実行し、協力工場をはじめとした関わる すべての人たちに感謝をする。これに勝る武器はありません。これからも、社員、家族、協力工場の三位 一体で、ここ品川区で奮闘していきたい考えです。

地域とともに ■各支店で「職場体験」に協力

これまでタキゲンでは、中学校の職場体 験学習に協力しています。きっかけは、中学 生の子どもを持つ社員から「学校が職場体 験をさせてくれる企業を探している」と相談 されたことでした。当社としては「未来のも

のづくり人材の育成に」との思いで、快諾し た次第です。当日は、主力商品の1つである 産業用錠前の構造を説明し、サンプルの錠 前を組み立てる作業を行いました。生徒さん たちの真剣な表情がとても印象的でした。



製造業(電気機械器具・装置製造)

大崎電気工業株式会社

Global Energy Solution Leader

資本金: 79億6575万円

本社所在地:東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア

電話番号: 03-3443-7171 (代表)

代表者:代表取締役社長 渡辺 光康 従業員数: 3,078名(連結)、463名(個別)

売上高:861億円

URL: http://www.osaki.co.jp/

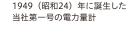
*2017年3月31日現在

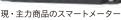




大崎電気工業本社









電気器具製造の個人商店から 世界的なソリューションリーダーに

当社のルーツは、1916 (大正5) 年に創業した弘業製 作所にさかのぼります。1937(昭和12)年に株式会社 化し、電流遮断器などを主製品にしていましたが、1941 (昭和16) 年に大崎工業と合併。社名を現在の大崎電気 工業株式会社に改め、社長に渡邊一二が就任しました。戦 中には計器用変成器などを製造して事業基盤を確立。戦 後は焼失した工場を復興して積算電力計市場に進出しま した。高度成長期には社長の渡邊和美の積極経営が功を 奏し、とりわけ電力会社と合弁会社を設立したことが大き な転機となり、事業を拡大。1980(昭和55)年に東京 証券取引所市場第一部に上場(第二部より指定替え)し ました。1988 (昭和63) 年に渡辺佳英が社長に就任し、 次代を見据えた経営改革を推進。近年ではM&Aにより、 2007年に関西圏の事業基盤を強化、2012年には海外の 電力量計メーカーを子会社化して、海外売上比率を大幅 に拡大しました。2014 (平成26) 年に、渡辺光康が社長 に就任し、"Global Energy Solution Leader"をビジョ ンに掲げ、経営を推進しています。

▶▶▶こうして危機を乗り越えた・

転換点の

様々な危機に対してトップ主導で迅速に対応



5代目 代表取締役 社長 渡辺光康

第一次オイルショック時の1973年、原材料価格の高騰等により、当社経営は危機に直面しました。当時 の社長は迅速に対策本部を設置し、製品の更なる原価低減、各種費用の削減に努めるとともに、お客様 である電力会社への供給責任を果たし続け、赤字を出すことなく乗り切りました。また、1998年のバブル 経済崩壊後の経営危機時には、当時社長のリーダーシップのもと迅速に対応し、低採算部門の抜本的改 革等により業績がV字回復しました。なお、1962(昭和37)年の株式上場以来、黒字経営を継続中です。

地域とともに ■区内の小学校でハンドボール教室を実施

当社のハンドボールチーム「大崎オー ソル」は1960(昭和35)年に創部し、 全日本実業団選手権10連覇、国体10 連覇など数々の大会優勝の実績がありま す。近年、地域への社会貢献活動の一環 として区内小学校に選手を派遣し、ハン

ドボール教室を開いています。走る・投げ る・飛ぶといったハンドボールのさまざま な動きやゲームを通し、体を動かすことの 楽しさやスポーツマンシップを児童に伝え るこの催しは、先生方や児童に好評です。

